

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070501954		
法人名	有限会社 マエダ		
事業所名	グループホーム はなまる		
所在地 (電話番号)	〒 800-0222	北九州市小倉南区中曽根一丁目4-10	(電話)093-475-9800
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年3月26日

## 【情報提供票より】(平成20年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 14 人	非常勤 7 人 常勤換算 12.3

### (2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築)/ 改築
建物構造	軽量鉄骨造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費13,000円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,315	円

### (4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野クリニック 慈恵曽根病院 三好歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多いバス通りに2階建て2ユニットの「はなまる」がある。駐車場の奥の玄関を開けると利用者や職員の楽しそうな会話が聞こえ、体操やゲーム、昼食の準備のもやしの根取り等利用者一人ひとりのペースで自由に過ごしている。職員はレクリエーションの企画、実行・貼り絵、広報誌の作成・料理、お菓子作り・ピアノ演奏・おしゃべり等、いろいろな特技の持ち主が多い。特にはなまる便りやホーム内行事で使う貼り絵は見る人の心を和ませている。また、ホーム長の介護に対する取り組みを職員全員が理解し、利用者の尊厳を守り、優しく見守りながら日々を過ごしている。毎年開催の中学生の体験学習会は利用者の楽しみの一つで、生活にメリハリができています。職員の異動は3年半で3人と少なく、職員一人ひとりの介護技術の質は高く、今後がますます期待できるグループホームはなまるである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査改善点は10件あったがホーム長、職員の努力で6件は改善されている。また、残りの4件は改善に向けて取り組み中である。今後は「地域密着型サービスとしての理念」「評価の意義の理解と活用」「入浴を楽しむことのできる支援」「鍵をかけないケアの実践」等に取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はホーム長が作成している。外部評価、自己評価の意義を職員全員が理解して、一人ひとりが自己評価に取組み、全員で話し合い、「はなまる」の長所、短所を理解して、日々の介護サービスに取り組むことが望まれる。
重点項目	運営推進会議のおもな討議内容及びそれわ活かした取り組み(関連項目:外部4)
	会議は利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、区役所保健師、提携医師、ホーム長、職員などで構成し、ホームの現状と行事の案内、問題点など、活発な意見が出て、双方向的な会議になっている。今後は地域のいろいろな方に参加してもらい、協力したり、協力されたりの関係を確立し、利用者が穏やかに、生きがいのある生活が送れるホームとして、努力されることを期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情は玄関に意見箱を置いているがほとんど利用されず、家族の来訪時や電話、運営推進会議時などに口頭で話してもらっている。利用者、家族の心配事などを解消できるように職員で解決できること、ホーム長やオーナーに話して解決することや意見の反映が出来ない場合の説明などの対応を、職員同士で話し合い努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、夏祭り、清掃活動、地区消防訓練、神社のしめ縄づくり等に利用者や職員が、参加し、地域と交流を図っている。また、近所の庭や畑で収穫された野菜や果物をいただいたり、収穫の手伝いを行っている。今後はホーム行事にも地域の方に案内を出して、参加してもらい地域から信頼され、協力してもらえる関係をつくっていくことが望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自信」「笑顔」という事業所の理念のもと、利用者の尊厳を守り、笑顔の絶えない事業所を目指している。		地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスの役割を追加した理念の作成が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念を確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域で行われる夏祭への参加や神社のしめ縄作り、地区全体の消防訓練に参加するなど積極的に地域住民との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はホーム長が作成している。外部評価の結果を活かし、より良いサービスに向けて日々取り組んでいる。		自己評価は職員全員で作成し、自己評価、外部評価の意義を理解し評価を活かし、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの活動状況や外部評価結果を報告し、参加者からは質問や意見、要望が活発に出され、双方向的な会議となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流は密である。今後は、市職員の研修の受け入れや事業所の運営状況を伝えるなどして、市町村と共有し、サービスの質の向上に取り組むことを計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在1名の利用者が地域権利擁護事業を利用している。成年後見制度について研修会に参加し、職員全員がいつでも家族に説明出来るように理解を深め、パンフレットを掲示するなど、制度が必要になった時に備えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族との信頼関係を築くため、ほのぼのとしたイラストや写真で飾られた「はなまるだより」を毎月家族に郵送している。ホームでの日々の過ごし方や、近況などが良くわかると家族に好評である。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に手作りの「ご意見箱」を設置しているが、利用が少ない。意見や要望は運営推進会議や来訪時に、個人的に出されることが多くその都度対応し、反映できる努力をしている。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設して3年半、職員の異動は3名と少ない。職員はユニット間で交代して勤務し、利用者全員と馴染みの関係を作り、職員の異動による利用者へのダメージを最小限に防いでいる。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別、年齢などの制限はない。職員は、それぞれの能力(図画工作、ピアノ演奏、おやつ作り)を發揮し生き生きと働ける環境である。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>ミーティング時に人権に関わる話し合いを持ち、職員の人権に対する意識付けを行っている。また、人権に関するビデオなどを市から借りて、運営推進会議時や勉強会などを行い、啓発活動に積極的に取り組む計画がある。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の案内を職員に知らせ、経験や習熟度の段階に応じて参加し、サービスの質の向上に繋げている。研修会参加については半日出勤扱いにしているが、参加者が少ない。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会や地域のグループホームの勉強会に参加し、地域全体のサービスの質の向上に繋げている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験入居などを通じてホームの雰囲気に馴染み、利用者と家族が安心して納得しながら利用できるよう、利用者の心身の状態に応じて段階的な支援を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという思いを職員が共有しており、利用者から教えてもらうことも多い。毎日の暮らしの中でともに涙し、ともに笑い合える関係である。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。意向が困難な利用者の場合は、履歴や家族などに相談し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師、ケアマネージャー、職員で話し合い、本人主体の暮らしに反映した介護計画である。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っているが、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎や、理・美容院の付き添い、散歩や買い物外出など、利用者や家族の要望に応じて支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援や事業所の提携医との連携を通じて、適切な医療を受けられるように支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けた支援の方針は、家族、かかりつけ医と十分に話し合い、利用者や家族が安心してサービスが利用できるよう、ホーム長、職員は方針を明確に共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部勉強会などで職員の意識向上を図り、さりげない言葉掛けや対応に配慮し、利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保について具体的に話し合いをし、周知徹底が図られるよう努力している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の心身の状態に配慮しながら、日々の暮らしがその人らしく過ごせるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根取り、わけぎの仕分け、お盆ふきなど、利用者と職員と一緒にやっている。食事も、同じテーブルで、職員と一緒に楽しく食事ができるよう工夫し、職員の家で作った漬物が昼食時にテーブルに出されていた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回と曜日が決まっているが、入浴のない日は、利用者に声をかけ、積極的に足浴を行っている。		現在、2ユニットとも月、水、金の週3日が入浴日だが、ユニット毎に入浴できる曜日をずらして利用者が、希望する時にいつでも入浴できるよう工夫されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、買い物、将棋、トランプ、めだかの餌やり、プラインドの開け閉め、日めくりカレンダーなど利用者の状態や希望で、役割分担し、一人ひとりが生きがいや喜びのある毎日を過ごせるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外食、ドライブ、外泊など、家族の協力を得ながら一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ目の前がバス通りであることから、利用者の安全を最優先し、家族とも相談の上、やむおえず玄関に鍵をかけている。		利用者の安全を優先するか、自由にのびのび過ごすことを優先するか考慮し、利用者、家族、事業所が納得できるように工夫されることが望まれる。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとで、年4回消防訓練を実施している。昼夜を通した災害時の具体的な避難体制を検討している。		地域の人の協力を得ながらの夜間を想定した避難訓練や、災害時に備えて非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等は業務日誌に記録している。便秘などの予防対策のため水分摂取量も記録することを検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月職員と利用者の共同作業によって作られた大きな貼り絵が、共用空間に飾られ明るく楽しい雰囲気が感じられる。また、廊下の突き当たりには利用者の喫煙場所として、椅子とテーブルが置かれ、くつろぎの場所となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、一人ひとりの使い慣れた馴染みのものを置き、利用者が、その人らしく安心して居心地良く過ごせるような配慮をしている。		